

<p>1 学校教育目標</p> <p>教育目標……校訓「一心」の精神を踏まえ、誠(誠実)・創(創造)・実(実践)の指針に基づいて、期待される宇部商生として21世紀を切り開いていくさらにたくましい人間を育成する。</p> <p>中・長期目標……①一層豊かな創造力を身につけ、誠実、努力をもって力強く実践できる人材の育成 ②商業に関する教科をはじめ、学校で学んだ基礎的・基本的なことを土台として、将来とも自ら学びつづけ、社会の変化に主体的に対応できる人材の育成 ③これからの高齢化・国際化社会にふさわしく、思いやりの心や協調性に富み、明るくたくましく生きるために、常に情操の涵養や体力の向上に努める人材の育成 ④規律正しさや礼儀を重んじ、しっかりした基本的な生活習慣を身につけ、潤いのある人生を築くことができる人材の育成 ⑤勤労や奉仕の心を尊び、地域社会の行事にも積極的に参加するなど、心豊かな生活ができる人材の育成</p>
--

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえ)</p> <p>【総務部】コロナ禍のなかで、教職員と保護者の共通理解と協働体制の確保を図り、学校行事の円滑な運営に寄与する。電子化を進めるとともに、生徒自ら課題を見つけて、解決できるよう手助けする。 【教務部】生徒の学ぶ意欲の向上と知識の活用能力を育むために、ICTを利用したわかりやすい授業展開を工夫する。また、保護者との連携のもと、家庭での学習習慣を身に付けさせる工夫を考案する。 【生徒部】各種学校行事等を通じて、互いを思いやる心や社会的絆を育むための体験活動等を行い、心の教育の充実を図る。アンケートや面談等によって生徒の実態把握を行い、校内だけでなく、外部とも連携した生徒の支援体制の構築を図る。生徒の基本的な生活習慣確立のため、教職員が統一した指導ができるよう、適宜共通理解の場を設け、継続した活動を行う。 【進路指導部】生徒の進路希望実現のため、インターンシップや進路ガイダンス、職場見学、進学希望者に向けては早い段階からの大学等の情報提供に努める等各種進路行事を計画・実施し、キャリア教育の充実を図るとともに、地域と連携し、地元で活躍する人材の育成を図る。 【保健体育部】基礎体力の向上を図り、体育行事を安全に行う。また、生徒自身による健康管理の徹底や定期健康診断後の事後措置の取り組みを徹底させる。 【商業】社会への対応力を授業や学校行事を通して育成する。そのためどのような取り組みが必要か検討し、発展させていく。また、平時の授業や資格取得をとおして生徒の専門性を高める。生徒の学習意欲向上のための取り組みを推進する。 【業務改善】組織としての協働体制を確立し、効率的な業務遂行を行うことで、働き方改革を推進し、生徒を支援する時間の確保及び教職員の心身の健康促進に努める。 【全般】ICTの効果的な活用や授業改善等による学習指導の充実、資格取得の指導の充実により、生徒の自ら学ぶ力を育み、商業高校の生徒としての専門性を高める。また、体験的活動や学校行事等を通して、生徒の規範意識の醸成や主体性を育む教育活動を推進する。</p>
--

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>①ICTを積極的に活用し、わかる喜び、できる楽しさを実感できる学習指導の改善・充実を図り、基礎学力の定着と資格取得を通じた専門性の深化を図る。 ②日々の学校生活の中で、基本的な生活習慣を身につけ、規範意識の醸成を図り、体験的活動を通じて、より豊かな人間性と社会性を育む教育活動を推進する。 ③地域や保護者との連携を強化し、積極的な情報発信を行い開かれた学校づくりを推進し、地元で活躍する人材を育成する。 チャレンジ目標……①気持ちのよい挨拶を行い、相手を思いやり、活気ある学校を創ろう。 ②ゴミをなしく、美しい学習環境を整えよう。 ③「小さな学校で日本一」を実現させよう。</p>

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務部	○学校行事の円滑な運営	・教職員の共通理解に基づく学校行事の計画・立案・準備を行う。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・感染症予防に配慮しながら、宇部商生の「元気」を取り戻すべくコロナ前同等の学校行事を実施した。また、前例にとらわれないこと一つひとつの行事の望ましい在り方を検討し、計画・立案・準備を行った。	・日程を決定する際の困難さを感じる。 ・行事への生徒の自主的な関与は大切だと思う。	A
	○学校とPTAとの密接な連携	・「PTA会報(年2回発行)」によって保護者との連携を図る。 ・「PTA総会やPTA評議員会(年3回実施)、PTA研修会等」によって保護者の意向を把握し、教職員へ伝達する。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・「PTA会報」を年2回発行し、学校とPTA役員・一般の保護者との連携に努めた。 ・「PTA総会」を実施した。その際、授業参観やクラス懇談会、部活動懇談会、吹奏楽部のミニコンサートなどを実施した。PTA研修旅行とPTA懇談会を開催した。学部商コンクッションはPTAによるコストコアと缶バッチ制作を開催し、保護者間の交流や会を通じて保護者の意向を把握することができた。	・小学校などではPTA総会などが書面決議で簡略化される中、対面を重視したリアル総会の実施、学校側の保護者に対して真摯に向き合う姿勢としても捉えられ、これからのつながりに重きを置いた取り組みに期待する。	A
	○「豊かな心を育む教育」を推進するための適切な図書館運営や読書指導、視聴覚機器等の導入・管理	・「図書だより」を充実させる。 ・校内読書会を開催し、読書への興味を持たせる。 ・読書感想文コンクール等へ応募させる。 ・図書、視聴覚機器を整備し、利用の機会を広げる。 ・生徒が意欲的、主体的に委員会活動に参加できるように取り組む。	4 十分達成できている 3 75%以上がプラス回答 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・「図書だより」を3回発行し、新着本やコーナーの設置などを取り上げた。 ・校内読書会では図書委員が本を紹介し合うビブリオバトルを実施した。参加者からも、多様なジャンルの本を知る機会になったと好評だった。 ・「国語科と連携し、夏休みの前出しや読書指導を行った。今年度は読書感想文コンクールへの応募作品は出なかった。 ・「読書の整理やラベルの貼付替え、本の修繕などの整備を継続して行っている。 ・委員会等で企画したPOPコンクールやビブリオバトルを実施した。今後も生徒の活動の幅を広げ、委員会活動をさらに充実させたい。	・ビブリオバトルは読書による知識の修得のみならず、プレゼンテーション能力の向上にもつながるため素晴らしい取組である。 ・読書に興味を持たせたり、読書の習慣を身に付けさせるには、ビブリオバトルは良い取り組みだと思ふが、読書感想文コンクールへの応募につながるとなると良いと思う。	B
	○ICTを活用した教育のための環境整備	・一人一台端末を配付し、端末や電子黒板の授業での活用を促す。 ・ICT委員を通じて生徒による主体的なICTの活用を図る。 ・ICT環境を利用して、学びの質の向上と業務効率化の両方を実現する。	年度末におこなうアンケートにおいて 4 90%以上がプラス回答 3 75%以上がプラス回答 2 50%以上がプラス回答 1 50%未満がプラス回答	3	・教員、生徒共に端末や電子黒板等を積極的に活用することができた。今後、より一層活用するために、持ち帰りを含めて検討する必要がある。 ・ICT委員を中心に電子黒板の準備や端末の整備を行うことができた。 ・ICT環境の整備により、学びの質の向上と業務効率化が図れたとのプラス回答は68%であった。今後、質の向上の見え方が必要である。	・教職員の業務と教育の両方に積極的に取り入れ、貴校がICT活用高等学校の先駆けとなること期待したい。 ・引き続き研究の上実践していただきたい。	
教務部	○基本的な生活習慣の確立と落ち着いた学習できる環境作りの推進	・朝の学習や10分間テストに取り組みませる。 ・行事等の精選を図り、落ち着いた授業に取り組ませる。 ・学習環境の整備およびICTの活用を推進する。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	4	・朝の学習・10分間テストについては、学年の協力により積極的に取り組んでいる。 ・学校行事がコロナ禍前の状況に戻りつつあり、授業時数がやや減少しているが、落ち着いた授業に取り組むことができた。 ・ICT機器の導入が進み、各教科で効果的な活用をしている。	・10分間テストをしっかりと取り組んでいるが、教員57.1%は十分とはいえない。	A
	○基礎基本の充実を図り、目的意識をもった意欲的な学習活動に取り組む態度と知識を活用する実践力の育成	・生徒が意欲的に学習活動に取り組む。知識をもとに活用できる力を養えるような授業を展開する。 ・ICTを活用したわかりやすい授業を展開する。 ・授業アンケート等を実施し、教材や授業の改善を図る。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	4	・各教科において、基礎基本の学習内容を重点を置き、目的意識をもった意欲的な学習活動に取り組む態度と知識を活用する実践力の育成を図るような授業展開ができた。 ・電子黒板等の整備により、分かりやすい授業展開が可能となった。 ・授業アンケートの活用で、授業改善を図った。	・関連するアンケート結果は良好。	A
	○家庭や部活動との連携のとれた学習活動の促進	・家庭学習に関する意欲を高める。 ・授業の復習に重点を置いた学習課題を課す。 ・保護者の協力を求める。 ・部活動の協力を求める。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・アンケートによると、「家庭学習をしている」と答えた生徒が昨年度よりも2.0%以上増加した。全体の割合は49%とまだ低い状況である。保護者については、昨年度よりも1ポイント減少しており、実態はあまり改善されていないようである。	・「家庭学習をしている」の間に、生徒、保護者とも50%以下は十分とはいえない。 ・学校行事や部活動が盛んに行われており、家庭学習との両立はなかなか難しいと思うが、例えば、ICTを活用するなどの工夫をして、生徒が家庭学習に取り組むやすくなるような環境づくりを進めてはどうか。 ・家庭学習はやはり「家庭」が大切だと思う。保護者にもしっかり理解していただきたい。	B
生徒部	○基本的な生活習慣の確立	・挨拶運動、生活指導(講話、頭髪服装検査など)を通じて礼儀正しさを、時と場に応じた身だしなみや行動がとれるようにする。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	4	・「基本的な生活習慣が身に付いている」、「校則の遵守」については、生徒の96%保護者の97%が肯定的評価をしている。 ・毎朝の登校指導により遅刻する生徒はほぼなく、挨拶の習慣もある程度身に付いている。大半の生徒は基本的な生活習慣が確立できているが、一部の生徒に服装頭髪等の指導を要した。 ・安心安全のために校内での携帯電話の所持を許可している。複数名の生徒への指導があったものの、ほとんどの生徒が本校の所持規定を守って利用している。	・関連するアンケート結果が良好。 ・礼法指導の充実がうらやがる。 ・「基本的な生活習慣が身に付いている」「校則の遵守」についてのアンケート結果で保護者の肯定的意見の割合が高いことは素晴らしい。	A
	○問題行動の未然防止、及び問題行動件数、転退学者数の減少	・学年、教育相談、いじめ対策委員会などにおける情報共有を密に行い早期対応を心掛ける。 ・各種講話や学校行事を通じた開発的生徒指導を行う。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・いじめの許さないという生徒の意識は高いと思われる。今後も教員間の連携を強め、情報共有を密にして未然防止のための開発的生徒指導や、早期発見、早期対応を心掛けた。また「いじめ防止基本方針」について、ホームページへの掲載をしているが、PTA総会や保護者会を通じて、十分周知していくよう取り組んでいきたい。 ・問題行動の未然防止に努めた。必要に応じて個別にカウンセリングなどを実施した。	・問題行動、退学者の原因が見えてこないところが難しいと思う。	B
	○外部団体との連携強化	・中高連絡協議会や地域社会で得た情報を職員で共有し、生活指導の場面に活かすことにより、生徒の社会性の向上に努める。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	3	・宇部、山陽小野田地区の中高連絡協議会での情報提供や、ふれあい推進委員会が収集した情報を活用して、生徒たちには社会性の向上について呼び掛けを行った。また、協議会や地域からの情報については、素早く情報提供することで、教職員間で共通理解を図ることができた。	・アンケートの実施と活用が良くないのであるが、根拠強く続けてほしい。	B
	○生徒の実態把握	・各種アンケートや教育相談活動、学年支援会議、教育相談週間等を実施し、生徒の実態を把握する。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	4	・学期毎にアンケートを実施し、自由記述欄を設けて、生徒の実態把握に活用した。 ・夏休みには部活動の顧問による面談、9月には教育相談週間を設け、担任による個人面談を行った。面談で気づいた情報や毎日の出入り、遅刻状況等、学校生活の中で気になる生徒については、担任や学年、部活動の顧問と情報共有し、必要に応じて対応した。 ・学期ごとに実施した学年支援会議では、問題の大小に関わらず情報共有することができ、生徒の実態把握において効果的であった。	・アンケートの実施と活用が良くないのであるが、根拠強く続けてほしい。	B
	○学校不適応等の問題を抱える生徒への支援	・個別の事案に対して支援・対応策を、事例検討会や生徒支援委員会等で検討する。 ・学年やスクールカウンセラー等との連携を密にし、早期対応に努める。	4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である	4	・積極的なスクールカウンセラーの活用が、生徒の悩みを解決する一助となった。教員や保護者も生徒への対応について助言を受け、教育活動に生かすことができた。 ・生徒支援委員会を学年毎に実施し、気になる生徒について様々な方からの意見を伺いながら、生徒の支援について協議した。 ・問題を抱えている生徒については、教育相談担当を中心に関係者が検討	・アンケートの実施と活用が良くないのであるが、根拠強く続けてほしい。	B

	<p>○基本的人権の尊重と人権意識の育成(特別支援教育を含む)</p> <p>○自らの意思で進路決定ができるよう、発達段階に応じた進路指導の実施</p> <p>○生徒個々の適性に応じた進路指導、進路選択支援のための情報提供</p>	<p>・LHRや授業において人権教育を行い、人権課題について自ら考え、解決しようとする態度を育成する。 ・講演会等を開催し、人間のあるべき態度を育成する。 ・校内人権教育研修会及び人権教育委員会を開催し、校内の人権課題の解決に取り組む。</p> <p>・生徒の発達段階に応じて、インターンシップや進路ガイダンス、職場見学の進路行事を実施する。 ・各分掌、各教科、各部活動と連携し、ICTを活用してキャリア教育の充実を図る。 ・進路希望者に向けて小論文模範試案を実施する</p> <p>・進路希望調査や進路面接等を計画的に実施し、自らの適性に気づかせ、進路先の早期決定を促す。 ・生徒自ら進路選択ができるよう、早い段階から進学情報、公務員情報等の必要な進路情報を適宜提供する。</p>	<p>4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である</p> <p>4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である</p> <p>4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>3</p>	<p>・人権に関するLHRを各学年で行った。1年生にはデートDVについての講演、2年生には体が不自由な方による講演を行った。3年生には過去の履歴書を提示し、就職差別について学習した。 ・1・2学年を対象として携帯・スマホのマナーやSNSの危険性など生徒に身近な課題について講演会を開催した。 ・アンケートで、生徒の93%が「人権尊重や命の大切さなどの教育」について肯定的評価をしている。学校と家庭の連携は「人権教育を進める上で重要であるため、保護者に対しては学校での取組をしっかりと情報発信していく必要がある」 ・本年度教育による職場訪問を実施、生徒のインターンシップ、進路ガイダンス、応募前職場見学も実施した。特に応募前職場見学には26社延べ50名の生徒が参加した。 ・LHRの進路ガイダンスではICT機器を使用し、生徒の体験体験はオンラインで実施した。 ・進路希望者に対して小論文模範試案を実施。受験希望者の意識付けになった。 ・進路希望者に対して小論文模範試案を実施。受験希望者の意識付けになった。</p> <p>・進路希望調査、進路面接を計画的に実施し、進路選択の手助けができた。 ・進学の指導では、早い段階での小論文指導を実施。受験希望者の意識付けになった。進路に関する情報提供について、適宜行った。</p>	<p>・日常の学校教育活動における人権教育の充実も望まれていると感じる。</p> <p>・関連するアンケート結果が良好。 ・資格取得に向けた指導の充実を感じる。</p>
	<p>○体力の維持向上を目指す指導の充実</p> <p>○集団行動の実践</p> <p>○健康・安全教育の推進</p>	<p>・各種目のスポーツ活動を奨励し、基礎体力の向上を図る。</p> <p>・「敬遠・正確・安全」を旨とする集団行動を実施する。</p> <p>・定期健康診断の事後措置の徹底を図る。 ・健康な心身・疾病・事故・災害についての基礎知識を養成する。</p>	<p>4 目標を達成している 3 前年度より好転している 2 前年度と同じである 1 前年度より後退している</p> <p>4 目標を達成している 3 前年度より好転している 2 前年度と同じである 1 前年度より後退している</p> <p>4 目標を達成している 3 前年度より好転している 2 前年度と同じである 1 前年度より後退している</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>3</p>	<p>・各科目のスポーツ活動を奨励し、基礎体力の向上を図ってきたが、新体力テスト等を分析すると、学年がかかることにより向上しているものと、向上させられていないものが見られる。</p> <p>・新型コロナウイルス5種移行により、制約が緩和された中で実践であった。従来通りの「敬遠・正確・安全」を旨とする集団行動を行うことができた。 ・大きな事故や怪我を防ぐことができた。</p> <p>・定期健康診断の事後措置の徹底を図るため、月ごとに声かけを行ったり、学期ごとに重点確認を行った。100%にはならなかったが、前年度よりも受診率は向上した。治療を行う意志を持たせる努力を継続する必要がある。 ・保健の授業や養護教諭の指導で健康な心身・疾病・事故・災害についての基礎学力を養成する努力を行った。</p>	<p>・目標に対する内容(具体的手立てと評価規程)がわからない。 ・部活動で文化部にも少し体力を向上させるための「何か」をさせたらどうか。</p> <p>・資格の集団行動に関する教育は、社会人として最低限必要とされる素養に直結しているため、今後も注力してほしい。 ・目標に対する内容(具体的手立てと評価規程)がわからない。</p>
	<p>○社会への対応力(ビジネスマナーやコミュニケーション能力など)の習得</p> <p>○平時の授業や資格取得をとおして生徒の専門性を高める</p>	<p>・授業や学校行事を通じ、コミュニケーション能力や挨拶の重要性を理解させ、日頃から実践できるようにする。 ・学部商コンexion、インターンシップなどの学校行事を通じ、ビジネスマナーの習得やコミュニケーション能力の向上など社会への対応力を身に付けさせる。 ・自ら学ぶ意欲を向上させ、学習した内容の定着、深化を図るため、各種検定試験の受験を促す。 ・学習意欲を喚起するとともに、将来の目標を明確にさせる。 ・全商3種目以上1級合格者30名以上を目指す。</p>	<p>4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である</p> <p>4 十分達成できている 3 おおむね達成できている 2 やや不十分である 1 不十分である</p>	<p>3</p> <p>2</p>	<p>・挨拶や礼儀の重要性に関して、授業や行事など様々な場面で指導を行った。特に3年次の授業では発表の機会を多く設けコミュニケーション能力の育成を図った。 ・学部商コンexionやインターンシップなどで、実践的なビジネスマナーを学ぶことができた。学部商コンexionを前年度よりも充実させたことにより、生徒は様々な企画を立案・実行し、生徒間だけでなく関係業者と話し合ったり協力したりすることを通して、社会への対応力の向上を図ることができた。</p> <p>・各自で目標額を設定し、自らが学ぶ意欲を持って検定試験を受験することで、学習内容の深化を図ることができた。また、将来の進路に向けての意識づけを図ることができた。 ・学習意欲喚起のためにデジタルサイネージでの検定受験奨励、歴代の3種目以上合格者の掲示、検定の難易度の検定課外を行った。 ・全商3種目以上1級合格者は17名である。</p>	<p>・学校としての取り組みは評価できるが、訪問時の生徒の挨拶の様子を見ると不十分な感がある。学部商コンexionは、地元企業から見ても魅力である。時代に捉われず引き続き伝統として徹底を期待する。 ・学部商コンexionについて、皆思いのほかなく、1・2年は裏方で良いのではないかと感じた。</p> <p>・資格は自身の財産になる。社会人になってからの学習意欲を刺激するためにも、高校生のうちに資格取得に取り組むことは大切である。引き続き推進してほしい。 ・全商3種目以上1級合格者30名に対して17名は目標設定が高いため、資格取得に向けた指導の充実を感じる。 ・資格取得することや資格取得に向けてチャレンジすることの重要性を生徒に伝え、専門性向上への意欲を高めていきたい。</p>
	<p>○学校の組織等</p> <p>○校務の円滑な運営、組織力の向上</p> <p>○日常的な業務</p> <p>○会議・打合せの効率化</p> <p>○業務の見直し、改善による効率化の促進</p> <p>○勤務状況</p> <p>○部活動や分掌等の業務の計画的な運営</p>	<p>・校務分掌の見直しを行い、各種業務において組織的な対応を一層推進する。 ・分掌や学年等における情報共有、連携を促進する。 ・組織的な感染症対策や応急対策を実施し、安全・安心な学校運営を目指す。</p> <p>・ペーパーレス化を促進し、ICT機器を活用して資料の事前配付を徹底するなど、会議の効率化を図るための工夫・改善を行う。 ・校務支援システムやICT機器の効果的な活用により、業務の効率化を促進する。</p> <p>・ノルマ・残業の削減や留守番電話の活用により、早期帰宅の呼びかけを行う。 ・部活動の計画的な運営の啓発を行う。 ・在校等時間管理システムや、3年3回実施の教職員面談を活用し、教職員自身の業務削減意識の向上を目指す。 ・学校行事の見直しや時間短縮を行い、本校の事情にあった行事の精選と簡素化を進め</p>	<p>分掌・学年間の連携について 4 90%以上がプラス回答 3 75%以上がプラス回答 2 60%以上がプラス回答 1 50%未満がプラス回答</p> <p>業務の効率化に向けた工夫改善について 4 90%以上がプラス回答 3 75%以上がプラス回答 2 60%以上がプラス回答 1 50%未満がプラス回答</p> <p>時間外業務時間の前年度比 4 90%以下 3 95%以下 2 100%以下 1 増加</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>・「分掌・学年間の連携」については、肯定的意見が85.7%で、昨年度と比較して、7.8ポイント減少した。教員間で情報共有する時間が増え、連携が促進していることと実感はあるものの、新学習指導要領に伴う評価や社会の変化に対応した校則の見直しなど、組織的に対応する時間が必要となった。新たな課題解決のために、業務の効率化をさらに進め、教員間連携ができるよう環境整備に努める必要がある。</p> <p>・指導者用タブレット端末の配付とWi-Fiの整備により、ICT機器を有効に活用することができ、会議のペーパーレス化や資料のクラウド化にも取り組むことができた。しかしながら、業務の効率化に対する肯定的意見は64.9%で、昨年度より3.4ポイント減少した。これは指針の保護者対応時間やデジタルアンケートへの対応時間が増加したことが要因として挙げられる。来年度から県下一斉にフルクラウド化が導入されることによる、これにより教職員の業務負担が減少する一歩を踏み出す。</p> <p>・部活動の計画的な運営を個別に呼びかけたり、在校等時間管理システムや業務削減意識が高まり、時間外業務時間が昨年度と比べ、1.3ポイント減少し、大幅に改善された。引き続き、行事の見直しや時間短縮を行うとともに、教職員自身の業務削減意識を向上させたい。</p>	<p>・先生方の意思統一をある程度度でもらいたい。言わねば先生によってバラバラだと生徒のモチベーションにもつながらないと思う。</p> <p>・残業時間は減少しているが、家に持ち帰って仕事をしていないか。 ・時間外業務時間が大幅に減少していることは評価できる。引き続き、教職員の働き方改革を進めていきたい。</p>

5 学校評価総括(取組の成果と課題)

【総務部】
・学部商生の「元氣」を取り戻すべく、学校行事の実施に努めた。しかしながら、コロナウィルスやインフルエンザなど感染症の状況が目まぐるしく変化するなかでどのような対応が適切であるか苦慮した。
・コロナ禍のなかで、実質的に停止状態にあったPTA活動を再起動すべく努めた。幸いに保護者の方々の温かい協力を感じるとともにPTA活動の必要性を再認識した。

【教務部】
・校務支援システムの運用については、成績処理、指導要録、各種証明書等の発行がスムーズにできるようになった。
・ICTにより教室に電子黒板が設置され、授業における活用状況も活発になった。
・学習面では、落ち着いた授業展開ができていた。朝の学習や10分間テストへの取組も積極的であり、基礎学力の醸成に役立っているものと思われる。
・観点別評価については、評価の割合等の改善等を行い概ね対応できていた。

【生徒部】
・基本的な生活習慣の確立や校則の遵守においては、一定の成果が出ている。今後も教職員が連携し、共通理解に基づいた継続的な指導が必要である。
・いじめに対する生徒の意識は高まっている。今後も未然防止のための取組の充実を図るとともに、早期発見、早期対応による適切な対応が重要である。
・スクールカウンセラーによる助言が生徒や保護者の悩みの解決や教育活動に有効であった。しかし、不登校傾向の生徒が増加しており、アンケートや面談等による生徒の実態把握や教員間の情報共有の重要性を痛感した。さらにスクールカウンセラーをより身近に感じ、その重要性を知ってもらう必要がある。
・人権教育や道徳教育については、教育活動全体で行うとともに、生徒の身近な課題を取り上げた講演会や体験活動を行った。家庭との連携を進めるためにも、情報発信をしっかりと行ってきたい。
・校則の見直しについて、生徒と共に学校を作り上げていく過程を持てたことは新しい取組として評価できたと感じている。

【進路指導部】
・今年度はほぼ全員が希望進路に合格。
・3年生全員と数度の面談を行い、生徒の希望にあった就職先や進学先を紹介することができた。

【保健体育部】
・新体力テストの結果を見ると、持久系の種目で高い数値を出している反面、男女とも筋力や瞬発系の種目において低い傾向が見られる。
・定期健康診断の事後措置として、虫歯への受診は100%達成しているが、全体での受診率が85.5%なので、継続した指導を行う必要がある。

【商業科】
・生徒に身に付けさせる「社会への対応力」を今後明確に示し文化化したうえで、学校全体として授業や行事に位置付けることが必要である。
・資格取得に加えて、資格取得以外の方法で専門性を高めるためにはどのように取り組めばよいか研究が必要がある。

【業務改善】
・各分掌と学年の連携を向上させることができた。デジタル化の導入により新たな課題も見出された。ICT機器の効果的な活用が課題である。
・部活動の計画的な運営は順調に行われた。引き続き、感染症対策や休業日の適切な設定が課題である。

6 次年度への改善策

【総務部】

- ・生徒たちのもっている活動への意欲を引き出せる魅力的な学校行事を立案し、生徒、教員がともに活動の喜びを共有できるよう努めたい。
- ・保護者の方々の関心を学校に向けた努力をし、保護者と教員が協力しながら生徒を指導する体制ができるよう努めたい。

【教務部】

- ・校務支援システムの運用については、微調整を行いながらスムーズに成績処理・出欠および指導要録等の管理ができるようにする。
- ・個人用タブレット端末配付も3年目となり、生徒の興味・関心を高める教材の開発や、授業展開が行われているが、さらなる有効活用について研究する必要がある。
- ・家庭学習については、特に長期休業中の課題等を工夫していかなければならない。
- ・観点別評価については、実施状況を考慮しながら整理し、改善していく必要がある。特に主体的に取り組む態度の評価について改善が必要と思われる。

【生徒部】

- ・基本的な生活習慣の確立や校則の遵守については、引き続き全教職員が共通理解の上で指導できるよう、情報共有を図っていききたい。
- ・情報モラルの指導については、いじめの未然防止にもつながるため、指導を継続し、折に触れて教職員による指導を行うとともに、警察・携帯会社等の外部講師を招聘した講演等を引き続き実施する。
- ・スクールカウンセラー活用の推進を図るため、生徒部だけでなく、学年等と連携をして、生徒・保護者への情報発信を行っていききたい。
- ・引き続きアンケートを用いた生徒の実態把握を定期的に行うとともに、生徒の日常の小さなサインを見逃さないよう、学年と連携をとり情報共有を密に行っていききたい。

【進路指導部】

- ・進学希望者に対し、今年度以上に新設学部や入試対策等の情報提供をする。
- ・就職希望者に対し、できるだけ多くの職場見学を実施する。

【保健体育部】

- ・授業の中での体づくり運動、特に筋力(瞬発力)の発達に必要な補強運動を継続的に取り入れる。
- ・感染症対策において、新型コロナウイルス5類移行での対応をしっかりと理解し学校全体に共有していく。
- ・インフルエンザ流行期の指導を強化する。
- ・定期健康診断の事後措置、特に歯科や視力低下への受診指導を強化していく。

【商業科】

- ・昨年度に引き続き、学部商コレクションの内容や日程等を検討する。その際、継続可能な形態かどうかを十分見定める必要がある。
- ・生徒に身に付けさせる「社会への対応力」の全学的取り組みについて、商業科がリーダーシップをとって推進する。
- ・資格取得が苦手な生徒にどのような形で商業としての専門性を身に付けさせるか検討し、教育課程に反映する。

【業務改善】

- ・管理職と教職員の意思疎通を一層促進するとともに、教職員が学校改善に向けた協議を率直に行える組織作りを進める。
- ・学校評価アンケートの結果をもとに、ICT機器の効率的な活用や業務の見直し、改善を通して、業務の標準化と効率化を図る。
- ・在校時間管理システムデータの活用して個別の面談を実施したり、部活動計画に基づいた運営状況を確認したりするなど、教職員自身が業務削減意識を向上できるように努める。
- ・感染症対策や安全点検を組織的にい、安全・安心な学校運営をめざす。